

内閣総理大臣 安倍 晋三 様
防衛大臣 中谷 元 様
米国大統領 バラク・オバマ 様
四軍調整官 ローレンス・ニコルソン 様

米軍属の元兵士による女性強姦遺棄事件に強く抗議します！

— 聖書・十戒「殺してはならない、姦淫してはならない」 —

5月19日、沖縄県警はうるま市の会社員女性（20歳）の遺体を発見。4月28日午後8時にウォーキングに出かけた後、米軍属の元兵士の男に強姦・殺害され、恩納村の森林に遺棄されたのです。被害女性の両親は「一人娘は、私たち夫婦にとってかけがえのない宝物でした。にこっと笑ったあの表情を見ることもできません。今はいつ癒えるのかも分からない悲しみとやり場のない憤りで胸が張り裂けんばかりに痛んでいます」と告別式の参列者に宛てた礼状に記していました。化粧品のスペシャリストの資格を得る夢と結婚を控えていた人生を瞬時に奪われたのです。余りにも悲しく痛恨の極みと言うしかありません。この手の事件は、沖縄では繰り返し起きているのです。

1995年10月、「三人の米兵による少女乱暴事件」に抗議する県民大会で、大田昌秀知事（当時）は、「行政を預かる者として、本来一番に守るべき若い少女の尊厳を守れなかったことを心の底からおおびしたい」と述べました。少女の人権を私たち大人は守りきれなかったのです。集まった約8万5千人の人たちは辛い涙を流し、二度と犠牲者を出さないことが大人の責任だと強く思われ、誓い合っただけでした。あれから20年が過ぎて、その時期に生まれた二十歳の女性がまた犠牲になったのです。

今回の事件はまた、61年前の「由美子ちゃん事件」（1955年9月）を彷彿させられるものでもありました。当時6歳の幼女が米兵に拉致され、暴行を受けて殺害され、ごみ捨て場に捨てられたのです。苦痛に顔をゆがめて歯を食いしばり、ぎゅっと結んだ小さな手には雑草が握られていました。

このような米軍人・軍属による女性への性犯罪・死傷事件は、軍隊組織で培われたむき出しの暴力により女性の尊厳を容赦なく蹂躪する構図でどれも共通しています。軍事基地がなければ、奪われることのなかった命と尊厳であり、今年3月13日（主日）にも名護市辺野古キャンプ・シュワブ所属の兵士が、那覇市のビジネスホテルに宿泊していた観光客の女性を襲って準強姦事件を起こしたばかりでした。米軍犯罪件数は、日本「本土復帰」43年間で5896件に上り、うち凶悪事件が1割（574件）を占めています。

これらの実情を見る時、私たち沖縄住民は、常に米軍人・軍属の暴力におびえつつ、日常を送らざるを得ない状況にあります。その根本には、沖縄への余りにも過重な米軍基地の押し付けがあるゆえであり、日本国憲法で謳われている「基本的人権の享有」が軽視されているからです。聖書の十戒にある「殺してはならない、姦淫してはならない」という主の言葉は、米軍人・軍属だからといって守らなくてもよいという事にはなりません。

以上のことから私たち普天間バプテスト教会は、軍事基地による犯罪や人権蹂躪を繰り返す状況を受けて、全ての米軍は沖縄から撤退することを求めます。辺野古新基地だけでなく全基地撤去を求めます。

2016年6月5日
普天間バプテスト教会役員会決議